



松陵夏まつりに出演

寄稿

YOSAKOIで 子どもが輝く 地域活動

～子ども社会の再生に向けて～

宮城県仙台市
松陵YOSAKOI隊代表
末弘美

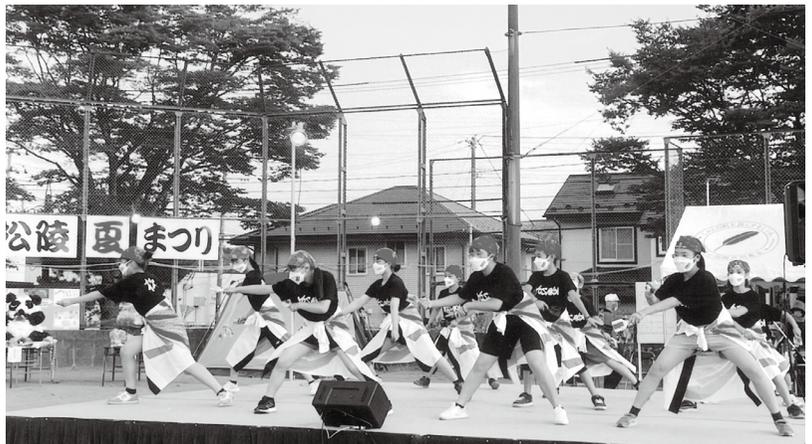
はじめに

仙台市泉区松陵はほぼ40年前にできたニュータウンです。当時は松陵小学校と松陵西小学校の2つの小学校がありました。町内会も4つに分かれていて夏祭りを一緒に行っています。子どもがたくさんいるのに子供会の神輿しかない子どもたちの参加に物足りなさを感じていた25年前。その時に立ち上げたのが「松陵YOSAKOI隊」です。

夏祭りYOSAKOIで魅せる

夏祭り1か月前から小学校に「夏祭りを楽しもうYOSAKOIで輝く夏に！」という参加者募集のチラシで声掛けをします。思い思いにマイ鳴子作りをして、次の週からいよいよ練習に入ります。

自己紹介をしてから、最高学年のリーダーを中心に、今年度のテーマやグループ編成、そして3曲の立ち位置を決めていきます。踊る曲は「よつちよれ」「乱舞」「ヨッシャ来い」の3曲。「よつちよれ」は前半が北海道ソーラン踊りで後半は土佐の高知のよさこい踊りです。ダイナミックな踊りです。「乱舞」は東北6県のお祭りを歌った大人っぽい曲です。「ヨッシャ来い」は鳴子を使わないテンポの速



揃った動きと大きな掛け声で華やかさを演出

い曲で、子どもたちの大好きな曲です。松陵市民センターの土曜日の練習だけでなく、平日も松陵3丁目のニワトリ公園で放課後集まって練習を重ね、だんだん熱が入っていきます。

そして夏休みに入って演技の総仕上げ。グループ毎に評価し合い先輩のアドバイスも受けて魅せるためのキレのある演舞、揃った動



松陵市民センター祭りに出演したメンバー一同

学校に新しいメンバー用の参加を募って「子ども七福神になって町内に幸福を呼び込もう!」のチラシを配布してもらいます。

冬休みに入ると皆が集まり企画会。案内人役、七福神のキャスティングとお囃子隊の担当を決めていきます。案内人と七福神の口上があります。小正月の七福神の主役は大黒天です。

チャセゴは、宮城県から岩手県にかけての地域で昔から行われてきた、「招運来福」「厄落とし」の小正月の行事です。子どもたちが地域の家々やお店などを回って歩き、「明きの方から、チャセゴに来した」と声を掛けます。家々では福の神が来たということで、子どもたちにお菓子などを振る舞います。地域によっては、お餅をもらうところもあるようです。

ちなみに、「明きの方」とは「福の神が住んでいる方角」のことで、「恵方」とも言い、その方角は毎年変わります。令和7年の今年は西南西の方角です。福の神は家々に幸せをもたらし、災いのもと(厄)を持っていくつてくれるといわれています。「松陵のチャセゴ」は、子どもたちが七福神に扮して地域の人たちに福をもたらします。

案内人を先頭に大黒天・恵比寿・毘沙門天・寿老人・福祿寿・弁財天・布袋尊の七福神の自己紹介を英語と日本語で行います。今年



小正月の七福神の主役は大黒天

案内人が七福神の招福と世界平和や能登半島地震の復興が早く進むように、そして七福神はそれぞれの福とインフルエンザや新型コロナウイルス感染症の終息などを願う口上を述べる内容になっています。子どもたちには少しハードルが高いのでオーディションをしてみんなが相談してキャスティングします。

そしてポスター作りです。作成したポスターと行程表のチラシを持って「チャセゴ」をやらせてもらえるように子どもたち自身が回って交渉します。松陵市民センター(今年)は泉消防署松陵出張所)からヘアークットコース、河北新報社松陵販売所、ヘアークットモニター、デイサービス悠々、松陵児童セ

小正月「明きの方からチャセゴに来した」

き、笑顔に大きな掛け声と完成に仕上げしていきます。

本番は赤のバンダナと黒のTシャツ、そして白の法被を腰に巻き、顔には「祭」「魂」の赤字と赤白青のラインのフェイスペインティングをして魂を込め、祭りモードにセットアップしていきます。

10月・11月には児童センター祭りや市民センター祭りにも出演し、夏とは違った華やかさを演出して楽しく祭りを盛り上げます。

12月になると1月の「チャセゴ」に向けて小



七福神に扮した子どもたちが地域を練り歩き福をもたらす

ンター、北仙台食堂、泉松陵コミュニティセンター、手打ちそば山査子など、最後にヤマザワ松陵店と練り歩きます。
練習会に入るとすぐ台本を手に口上の内容を暗記しなければなりません。立ち稽古に入り小道具を持って大黒舞を踊らなければなりませんからです。

「明きの方からチャセゴに来した」と口々に

唱えて、会場に到着したら新年のあいさつを述べ、案内人から先頭に七福神が次々と口上を述べていきます。すると案内人が皆様に七徳が授かりますように舞ます」と言います。「明きの方から福大黒舞い込んだな」と大黒舞の歌が始まり、大黒舞がスタート。最後に「こりゃめでたいめでたい商売繁盛 皆さま おまめで金儲けどっさり」の歌詞で終了します。

ほぼ10か所ほどの会場でチャセゴを終え、子どもたちは安堵感と達成感でいっぱいになります。スタート地点の松陵5丁目集会所に戻り、ご褒美のお年玉と頂いたお菓子を分け合います。そして地域の人たちに準備していただいた雑煮を食べながら、今年の抱負を述べ合い、みんなで決意を新たに頑張ることを誓い合います。

成果

松陵YOSAKOI隊の25年間を考えてみると、3月に小学校を卒業する6年生には修舞証書を手渡し、中学入学時を一つの節目にしています。この授与式を盛大に楽しく行い、みんなでお祝いの寄せ書きを贈ります。それが次のリーダーの引継ぎのように自然発生的に行われており、そういうことも含めてリーダー的判断力や実践力が育っています。小さ



チャセゴが終わりみんなでお雑煮を食べる

い子ができない時や、分らないことがあつたら寄り添って教える姿が自然に生まれています。代々松陵YOSAKOI隊への熱い想いや仲間への想い、地域への愛着も出ているように思います。
また小正月の「チャセゴ」でも子ども七福神として町内の人たちに招福して皆が幸せになるためには自分は何をどうしたらいいのかをよく考える習慣が自然に身に付き、よく考えて行動する人間に成長していると思います。地域の子ども小正月行事としてかわいい七福神が地域に広まり、子どもたちの活動を優しく歓迎してくれ、見守って寄り添ってくれる地域の人たちの温かさを感じています。